総務企画防災常任委員会行政視察報告書

大　谷　弥　生

〇神奈川県湯河原町

パークＰＦＩを活用した万葉公園の再整備について

【所　見】

パークＰＦＩを活用した万葉公園について学ぶ前に、町立湯河原美術館を見学したり、実際に街並みを歩きながら、ご説明をいただいた。このことで、湯河原町の目指すべき観光コンセプトを掴むことができた。

湯河原町の観光コンセプトは、地域住民と対話をしっかり行うことによって描かれた。対話することによって、地域住民（既存観光事業者）とも観光コンセプトが共有できた。

また、新規観光事業者には、観光協会がＤＭＣ（マネージメント中心）として、民間事業者の起業を支援しており、新規事業を実施する際は、アドバイスをする制度もある。

このような取り組みによって、街並みは、トータルコーディネートされている。もちろん、まちづくり協定や景観条例などを制定しているが、街並みに統一感があることで、パークＰＦＩ事業者も万葉公園の再整備に参入しやすかったのではないかと感じた。

さらに、湯河原町は、近隣の温泉地との差別化を図り、高価格化や若者世代をターゲットにしている。

パークＰＦＩによって整備された万葉公園には、清流が流れ、散策できる遊歩道や休憩できる場所の確保、Wi-fiの導入で、ゆったりと自分時間を確保できる空間（テラス）が複数整備されていた。その奥に惣社テラスがあり、玄関テラスから惣社テラスへ向かう遊歩道を歩くことで、ゆっくりと別世界へ向かい、その先には、疲れを癒す惣社テラスが待っている。その様なストーリー性も若者世代から好まれるのではないか。

万葉公園の遊歩道は、バリアフリー化されておらず、若者世代をターゲットにしている造りであり、ここでも、観光コンセプトを崩していない。

余談ではあるが、町の独自事業で整備された玄関テラスは、以前の観光会館がテラス地下に残っている状況で、老朽化した公共施設は、全て撤去するという発想しかなかったが、残すという新たな考え方を取り入れた。

また、コロナ禍以前に整備されたことで、ワーケーションにも、多数利用さ

れている。

指定管理者制度を導入したことによって、町民以外の雇用が生まれ、さらには移住定住に繋がっている。職員募集の方法も、雇用条件を前面に出すのではなく、施設のコンセプトを前面に出して募集を行ったようで、その募集方法も勉強になった。

湯河原町にとっては、パークＰＦＩを活用した万葉公園の再整備は、いくつかの街並み整備の１つであるが、湯河原町は、ターゲット層やコンセプトを重視しており、街並みもトータルコーディネートしたことによって、選ばれる観光地となるのではと感じた。

しかしながら、湯河原町は、現状に満足することなく、新たなコンセプトの創出も考えており、国からの助成金を活用しながら、不採算ホテルを活用した新たな観光資源の発掘をしており、貪欲な姿に感心した。